

東北自動車道黒石インターチェンジを活用した ロジスティクス戦略

～ 青森県黒石市 ～

I. 前言

1. 戦略の趣旨

人口減少や高齢化による労働力不足に伴い、生産力低下による地域経済の停滞が懸念されています。こうした状況下において、当市やその周辺地域に存する各産業分野を持続的に発展させていくことが不可欠です。その中でも、当市に位置する『東北自動車道黒石インターチェンジ』を活用し、供給側と需要側を緊密に結びつけられる環境づくりを進め、物流の最適化を図ることにより、地域産業の活性化を目指す必要があります。

この戦略は、『東北自動車道黒石インターチェンジ』を活用したロジスティクスの方向性を明らかにするものです。

2. 戦略策定の背景

東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略を策定する背景は以下のとおりです。

- (1) 『東北自動車道黒石インターチェンジ』は、青森県のほぼ中央部に位置する優位性を持ち、しかもその周辺には戦略実現を支える広大な用地を確保できる可能性があること。
- (2) 今後予想される労働力不足に対応して、周辺地域の各産業分野において物流・商流の改善・最適化に向けた動きが加速されている状況にあること。
- (3) 特に黒石市内の貨物輸送業は、これまで従業者数が大幅に増加してきたものの、今後一層効率的な輸送体制の確立が求められていること。
- (4) 国は、総合物流施策大綱を定め、その中で隊列走行・自動運転による運送の飛躍的な効率化を促進しているほか、民間企業と一緒に高速道路のトラック隊列走行実験に向けた研究・検証が開始されて、近い将来にその実現に向けた動きが加速化することが予想されること。

II. ロジスティクス戦略の主な内容

1. 物流、流通事業者などによる輸送プラットフォームの構築

青森県内のほぼ中央部に位置している『東北自動車道黒石インターチェンジ』の優位性を発揮し、黒石市及びその周辺地域の主力産業である農産物や伸びが著しい精密機械・器具等の工場製品等に関して、物流の合理化を実現するため、輸送プラットフォームの構築をサポートします。

2. 大規模小売事業者等の物品供給プロセスの最適化を目指す取組みへの対応

大規模小売事業者等が物流の最適化による経営の合理化を目指して、競争力を強化する動きが加速化しています。

そのため、チルド輸送などの特殊な輸送や「トレーサビリティ」を確保できる品質の高い物流、原材料の調達・仕入れから貯蔵・保管・加工・配送などを一元的に担う、物流プロセス全体の最適化を目指す事業者のニーズに応えられる基盤整備をサポートします。

3. トラック隊列走行など新しい輸送システムの先駆的対応

国や民間事業者は、2020年度に高速道路の後続無人隊列走行を実現するための検討を開始しているが、この動きを注視しながら東北自動車道における実現を想定し、『東北自動車道黒石インターチェンジ』周辺のインフラ整備の可能性について検討します。

4. 物流の拠点化、最適化に伴う関係事業者の周辺配置の促進
中核的な物流拠点等の整備に伴い、更に関係する事業者に対して周辺への誘致を促進し、中長期的な視野に立ち、企業誘致を進めます。

Ⅲ. ロジスティクス戦略実現に向けた取組み

1. 輸送プラットフォーム構築や物品供給プロセス最適化などをめざす関連事業者の誘致・促進
黒石市及び周辺地域を拠点として輸送プラットフォームの構築により仕入れから貯蔵・保管・加工・配送など物流の最適化を目指す事業者の公募・誘致を図ります。
2. 戦略拠点となる用地の取得・供給
『東北自動車道黒石インターチェンジ』周辺用地における戦略拠点を整備するため、用地の取得とその供給に向けた体制を整備し、円滑な事業推進をサポートします。
3. トラックの隊列走行・自動運転等に関する動きへの対応
黒石市及び関係団体等による情報収集活動等を行うための研究チーム（仮称）を設置し、先進的な動きに迅速に対応できるよう体制を整備します。

Ⅳ. ロジスティクス戦略実現により期待される効果

物流の拠点化・最適化による地域産業の競争力強化とそれに伴う地域経済への寄与が期待されます。特に以下の効果が期待できます。

- (1) 輸送コストの合理化等による地域産業の競争力向上が可能となります。
- (2) 労働力不足の進行に対応できる合理的な物流の確立が可能となります。
- (3) 農産物・工業製品等を含めた地域産品の供給の円滑化により需要拡大が期待されます。
- (4) 関連事業の周辺地域への立地促進が期待されます。
- (5) 中長期的に進行することが予測される物流改善への迅速な動きが可能となります。

Ⅴ. ロジスティクス戦略の期間

第1期 平成29年度から5年間（2017年度～2021年度）

Ⅵ. 推進体制

- 市役所に庁内検討会議を設置するほか、関係事業者等の参画を得た推進会議を設置します。
- ロジスティクス戦略の拠点整備推進のために必要な組織体制を整備します。

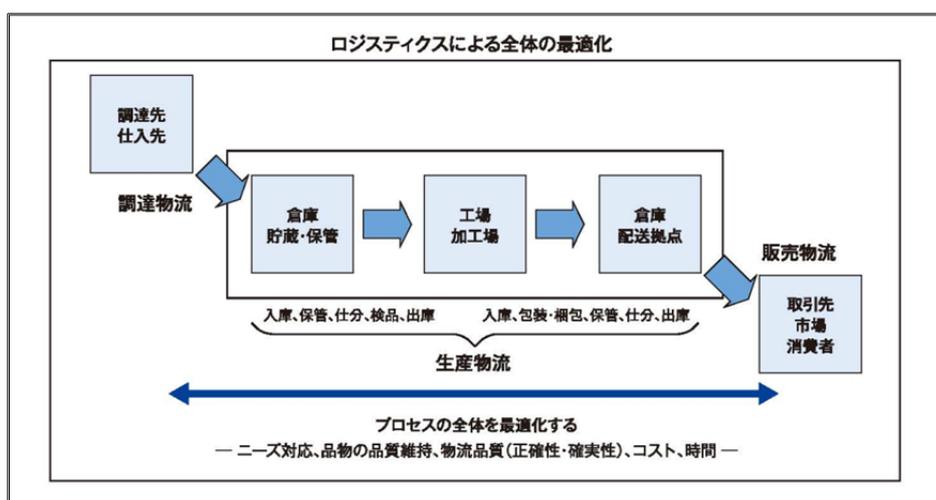
<参考>ロジスティクスの考え方・効果

【青森県ロジスティクス戦略（平成26年1月）参照】

①考え方

ロジスティクスとは、もともと武器、弾薬、燃料を前線に補給する「兵站」を物的流通に当てはめ、原材料の調達、生産、保管、販売、情報などの全体的な流れを統合的なシステムとして動かすことです。

「物流」は、各ノード（工場や倉庫、店舗）の間の輸送、保管、荷役、流通加工、情報処理を表す概念として使われるのに対し、「ロジスティクス」は、物流全体の最適化～「個別機能の最適化よりも全体の最適化」～をめざす場合に多く用いられます。



②期待される効果

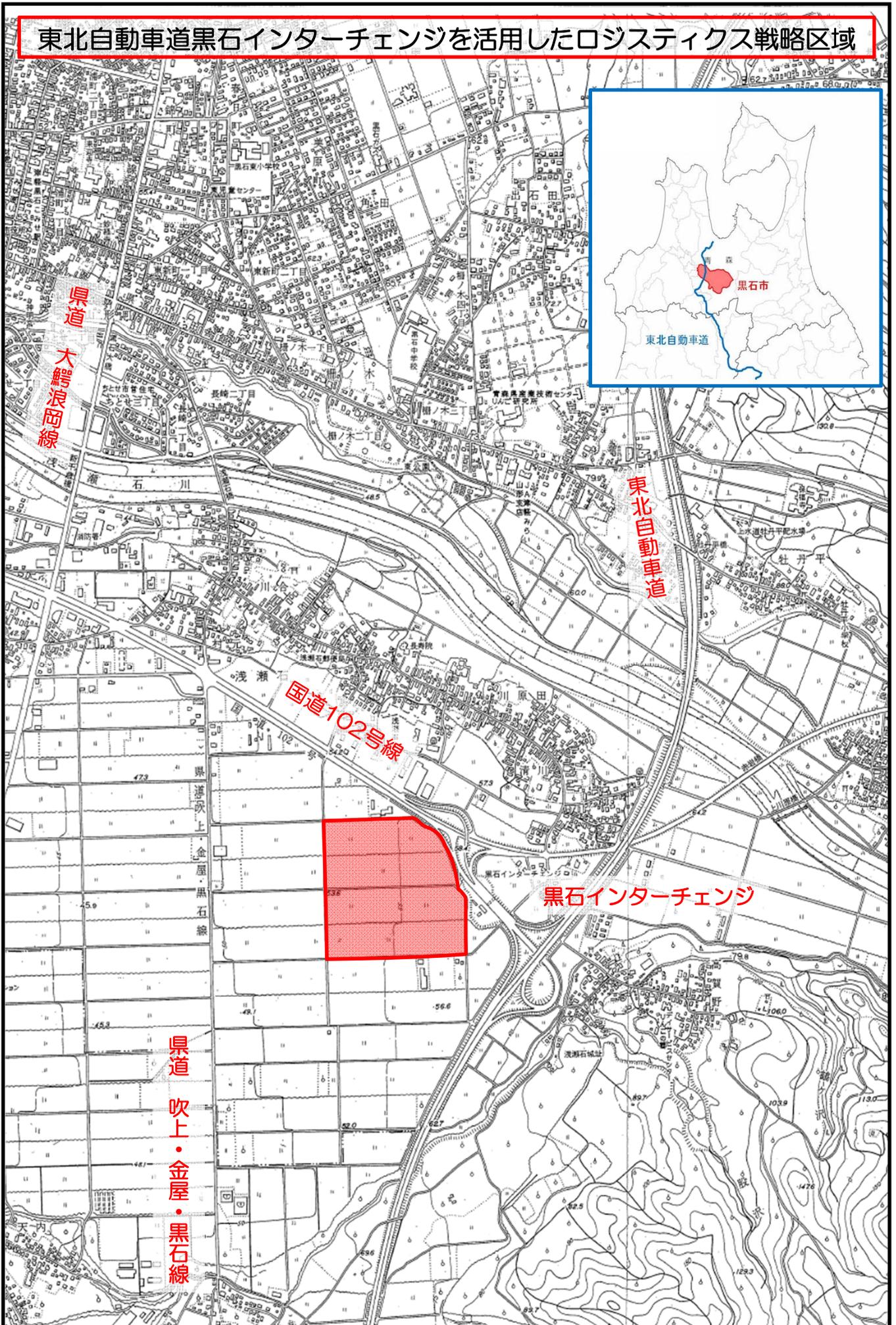
物流の最適化を図ることによって期待される効果例は以下のとおりです。

※ロジスティクスは裾野が広く、あらゆる産業分野、流通段階に当てはまる経済活動です。それぞれの分野、段階における課題を改善する取組みを着実に推進していくことが、直接的、間接的に地域経済にも効果が波及することにつながります。

具体的な効果の例

- ロジスティクス機能が連携することで、産品や製品を、より広いエリアに短い時間で輸送することが可能となり、市場拡大の可能性が開ける。
- 温度管理を行いながら短時間で輸送するためのシステムが構築されれば、遠隔地でも青森県の産品を付加価値の高い生鮮品として市場に供給することが可能となる。
- 1回の出荷量が少ない産品や製品であっても、小口混載サービスを活用することによって効果的かつ低コストでのコンテナ輸送が可能となる。
- 高度な物流機能が備わることで、その利便性にひかれて、製造業等の様々な産業の立地展開可能性が生まれる。

東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略区域



県道
大鰐渡辺線

東北自動車道

国道102号線

黒石インターチェンジ

県道
吹上・金屋・黒石線

黒石インターチェンジ出口



国道102号線

黒石インターチェンジ入口



国道102号線

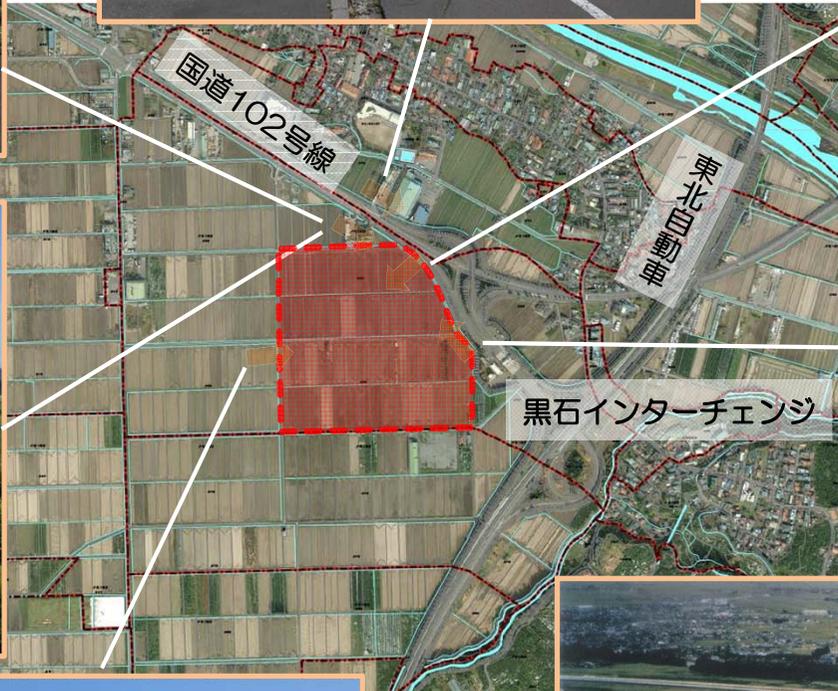


黒石インターチェンジ出口



黒石インターチェンジ

黒石インターチェンジ



黒石インターチェンジ



東北自動車道 黒石IC

スケジュール【東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略(案)_第1期前期】

事業名・実施内容	平成29年度									平成30年度									備考			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月
○ロジスティクス戦略(案)検討																						
戦略(案)検討	■	■																				
戦略(案)庁内意見集約			■	■																		
関係機関(国・県)調整	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■											
○ロジスティクス戦略公表・組織体制の検討																						
関係者説明会(概要)			■	■																		
黒石市議会へ説明				■	■																	
記者発表(公表)				■	■																	
組織体制の検討				■	■	■	■	■	■	■												
庁内検討会議の設置検討				■	■	■	■	■	■	■												
推進会議の設置検討				■	■	■	■	■	■	■												
○ロジスティクス戦略募集・手続き・着手																						
提案募集				■	■	■	■	■	■	■												
詳細協議(黒石市⇔事業者)					■	■	■	■	■	■	■	■										
関係者説明会(詳細)												■	■									
関係法令手続き											■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
事業着手																				■	■	■